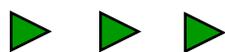


# 自立した主権者 をめざして



Vol.19 民主主義の復元力

## KEYPOINT

- ① 民主主義を鍛えるとはどういうことか
- ② あなたが感じる政治不信とはなんですか？

## SUMMARY

社会の問題に対して当事者意識を持つこと、民主主義を鍛えることとはどういうことでしょうか。どれが正解ということはありませんが、私たちが実際にどうしていったらよいのか、具体的な行動について考えてみました。



## 何故ロシア・ウクライナの問題は自分たちの問題なのか

近年、「当事者意識を持つ」という言葉がよく使われるようになりました。差別、いじめ、LGBTQ、性被害・・・挙げればきりが無い様々な社会の問題を、「当事者として」考えるとはどういうことでしょうか。ロシアとウクライナの問題についても、「自分は遠いところに住んでいるから何もできない」と考えている人、「ロシアが侵略するのは悪いが、ウクライナもアゾフ大隊などクリミア紛争の時の問題があってお互い様ではないか」と考える人、「命を救うためにウクライナは降伏するべきだった」と主張する人など、様々な意見が寄せられていますが、SNSで映像を見たり、色々な報道で情報を得たりしていても、私たちはなかなか世界の出来事を自分の身近な問題として考えることが出来ません。戦争が起きている状況を想像できなくても、「このまま戦争が続いたらどうなるか」を考えていくと、最初に思い当たるのが、「貿易関係」です。

簡単なお話で言えば小麦や原油、半導体でしょうか。消費者物価が後上がっていくことが予想されるということになれば、すこし身近に感じられるかと思います。

さらに考えを深めていくために、別の社会問題に言葉を入れ替えても自分は納得できるかというように考えてみます。先ほどのロシア・ウクライナに対する意見を、性被害にあった人に当てはめてみて、「襲う方は当然悪いが、襲われる方も隙があり、状況を想像しなかったのだからお互い様ではないか」「命を救うためには抵抗せず、受け入れるべきだった」などと、言うことが出来るでしょうか。いじめを苦しむ自らの命を絶った人に対し、「いじめは悪いが、いじめられる方にも問題がある」と言い切ることが出来るでしょうか。不登校、貧困、虐待も同様です。戦争という大きな問題だから想像だけで言ってしまうのかもしれませんが、その意見を身近な問題に照らし合わせた時はたして同じことが言えるか、と考えてみると、問題の本質が何であるのか、世界の情勢と自分の周囲にある問題との共通点はどこにあるのかに意識を向けることができます。戦争については言えるけれど、他の問題は違うから言えないよ、ということであれば、そこには「人権」という視点がぬけているのです。戦争という遠い国の大きな出来事から自分の生活を振り返ることは難しいかもしれませんが、自分の身近にある問題を社会の出来事とどこがつながるのか想像してみると、見えてくる

ものがあるかもしれません。

もう少し付け加えるならば、なぜウクライナの人たちを日本は受け入れるのに、ミャンマーや香港やシリアの人は受け入れられなかったのか、今日本にいる外国人にはどんな立場の人がいて、どうやって日本に来ているのかなどを考えてみると、自分の家の近くにある外国人実習生の訓練をしている施設がどのように運営されているのかにも興味を持つことが出来ますし、道ですれ違う彼らと笑顔で挨拶ができるようになるかもしれないということです。

### 市民の意識が民主主義の強靭さを支える

自分で考えたことを自分の中にしまったままでは周りに伝わりません。考えたことは発信をしてみましょう。ただし口頭であろうが、ネットであろうが、発信することはとても怖いことです。否定されるかもしれない、攻撃されるかもしれない、デジタルタトゥーとして一生残ってしまうかもしれない。特にネットはそうした危険性がありますから、ただでさえ高いハードルがさらに高くなってしまいかも知れません。その場合は、最初は誰かに話してみるところから始めてみましょう。親しいひと、家族、先生たちに少し話してみてもその反応をみる、それだけでその人との関係性が変わり、違う認識をもって接することができるようになります。最初から話の合わない人と無理

に話すことはなく、意見が合う人からはじめ、徐々に意見や立場が違う人と交わっていく。そうやって少しずつ、「声をあげる」勇気と経験を積む訓練が必要です。

社会を一足飛びに変えることはできませんが、私たちが住む地域を形作る市民の意識が少しずつでも変わること、大きな危機に直面した時に「今からではもう遅い」という状態をなくすことが出来るようになると思います。

民主主義を鍛えるということは、市民の意識、価値観をアップデートすることであり、そのアップデートの方向が皆一様でないからこそ、対話を続け、お互いを尊重し合う関係性をつくるのが大事なのです。

#### 〈機関紙「日本再生」No.514 の内容〉

2022/03/01 発行

ロシアはただちに無条件で停戦せよ。国際秩序を破壊する暴挙を押し返す民主主義社会の強靭性を！ ●3-8面/コラム/一灯照隅< ●9-11面/インタビュー/29歳議員がめざすもの/馬場雄基・衆院議員 ●11-14面/インタビュー/野党の可能性/山本健太郎・北海学園大学教授 ●14-16面/インタビュー/デジタル時代の表現の自由/曾我部真裕・京都大学教授

※ 機関紙「日本再生」のご購読をご希望の方は下記の連絡先までご連絡ください。

一緒に  
考えてほしいこと

- ・あなたの身近な問題は世界のどんな問題につながっていますか？
- ・あなたの意見を広めようと思ったら、どんなことをしてみますか？

#### 【連絡先】「がんばろう、日本！国民協議会」埼玉読者会

住所:埼玉県越谷市大里 226-1 白川ひでつぐ事務所  
担当:吉田理子  
ganbarou.r.a.saitama@gmail.com

がんばろう、日本！HP 埼玉読者会 note



がんばろう、日本！国民協議会は、「国民主権の発展」「人づくり」「がんばる日本と日本人を回復する国民運動」「自由・民主」東アジアの社会的リーダー層のネットワーク構築および日米同盟の再定義を目的として活動している団体です。機関紙「日本再生」および各種資料の発行や、例会、定例講演会などの開催、また国民的課題、地域的課題への取り組みなどを行っています。